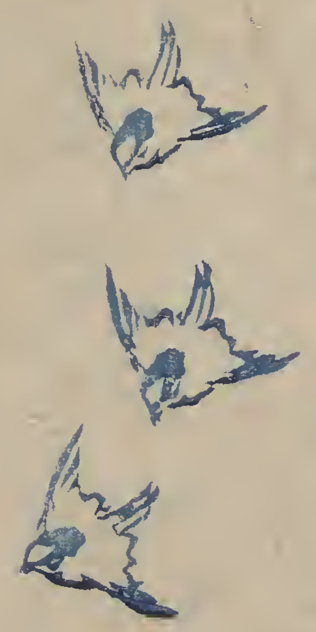
花鳥畫傳

全

171

葛飾戴斗画

花鳥画傳　二編



東都　嵩山房
浪華　群玉堂　仝梓

花鳥畫傳二編叙

嚮に葛飾戴斗子が。さきしの花
鳥が。描き揃へて冊子となし。精き人
の眼を驚め。且画を學ぶ法則にもかなき
このたびあまきしまが。花を濃淡の画が
うつし顕ひ。鳥々写生法がごとく極めて
妙手の筆力なり。愛翫する人多く

志て。簡照なしもぞ翻編ちらすまやと問
人磨りしかよりて。書肆頻に乞しうば。
先生頻て筆を染、初輯に漏しる
いふし更なるも画再出せしものあれば。
貨を損ん窒さへて顛流筆勢
自在を揮ひしまて。唐山の呉道子が
朝の僧雪舟も再びこの世に出るしも。

太る出んと羨しやおはべき筆福り世
損しといへども視るまゝ柳の糸縷まで。松乃
葉の数まで尽して長くこの道の宝
とは。かしこき御代の恵なるべし

嘉永二
己酉の春猿
庭て常
東仙人誌

鳩(はと)水葵(みづあふひ)

一重櫻(さくら) 鳩(はと)

冨貴艸
文目木
孔雀

白水翁
池水
葉藻鴨

白春 まきひ
繍眼兒 めちろ

花鳥画傳二編 五

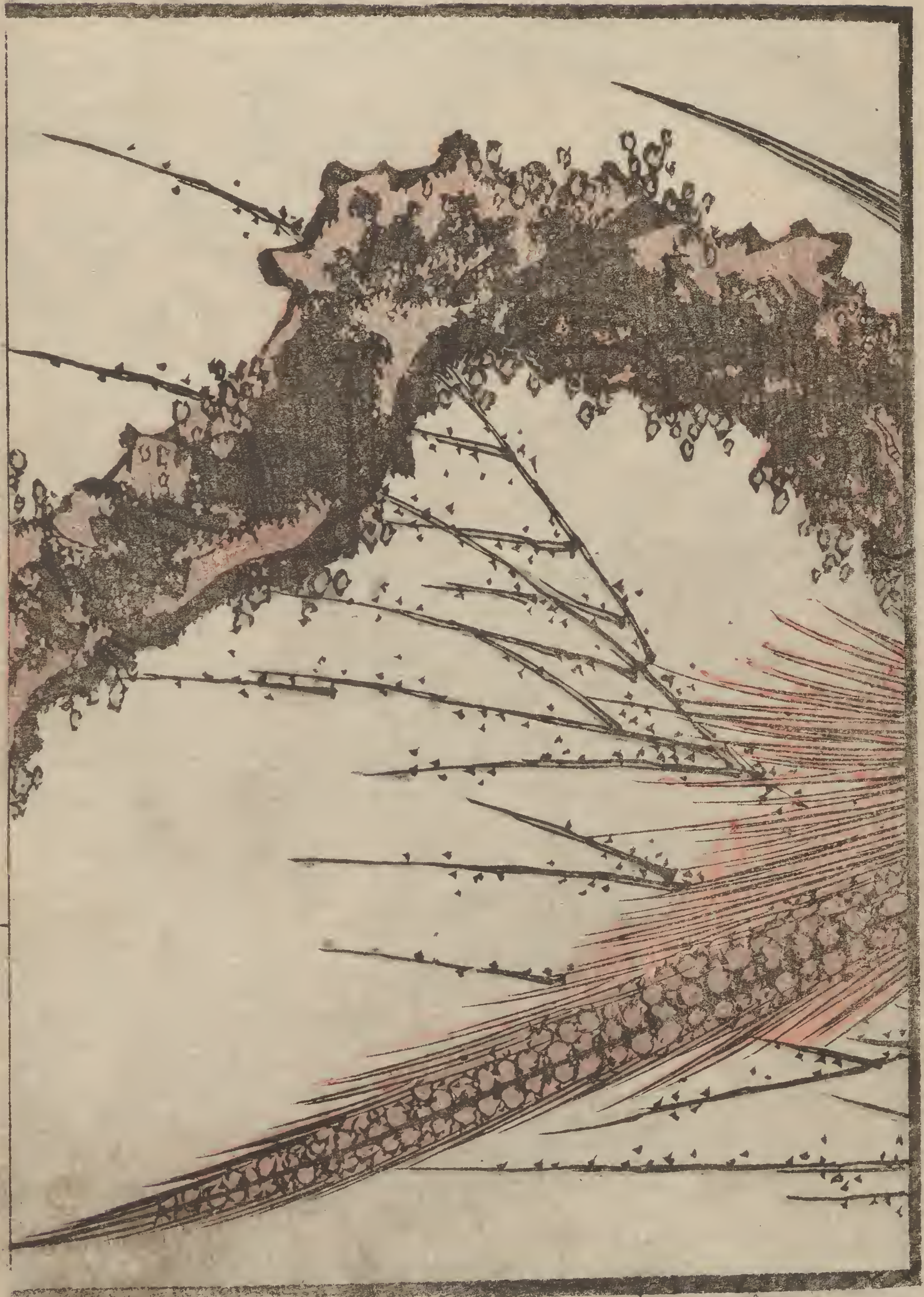
花鳥画傳二編 六

雷鳥

雉

熊鷹
くまたか

鶴



錦鶏 きんけい
梅 むめ

芭蕉
穴岩
カラクン

青芦
翡翠

さんじやく
山鵲
おなが
烏鳳

秌葵

蘭
らん

野菊
のぎく
鵞

鷗 かもめ
都鳥 みやことり

ゆうがほ
夕顔
うこつけい
宇骨鶏

兎（うさぎ）

鷹（たか）

みゝづく
木兎

ふくろう
鴟
ことり
小鳥

梅
錦鳩
孔雀

白鳩

木蓮華（もくれんげ）
白イレユ

紅イレユ
鸞イムユ

雉子 虎耳草 夕皃 は

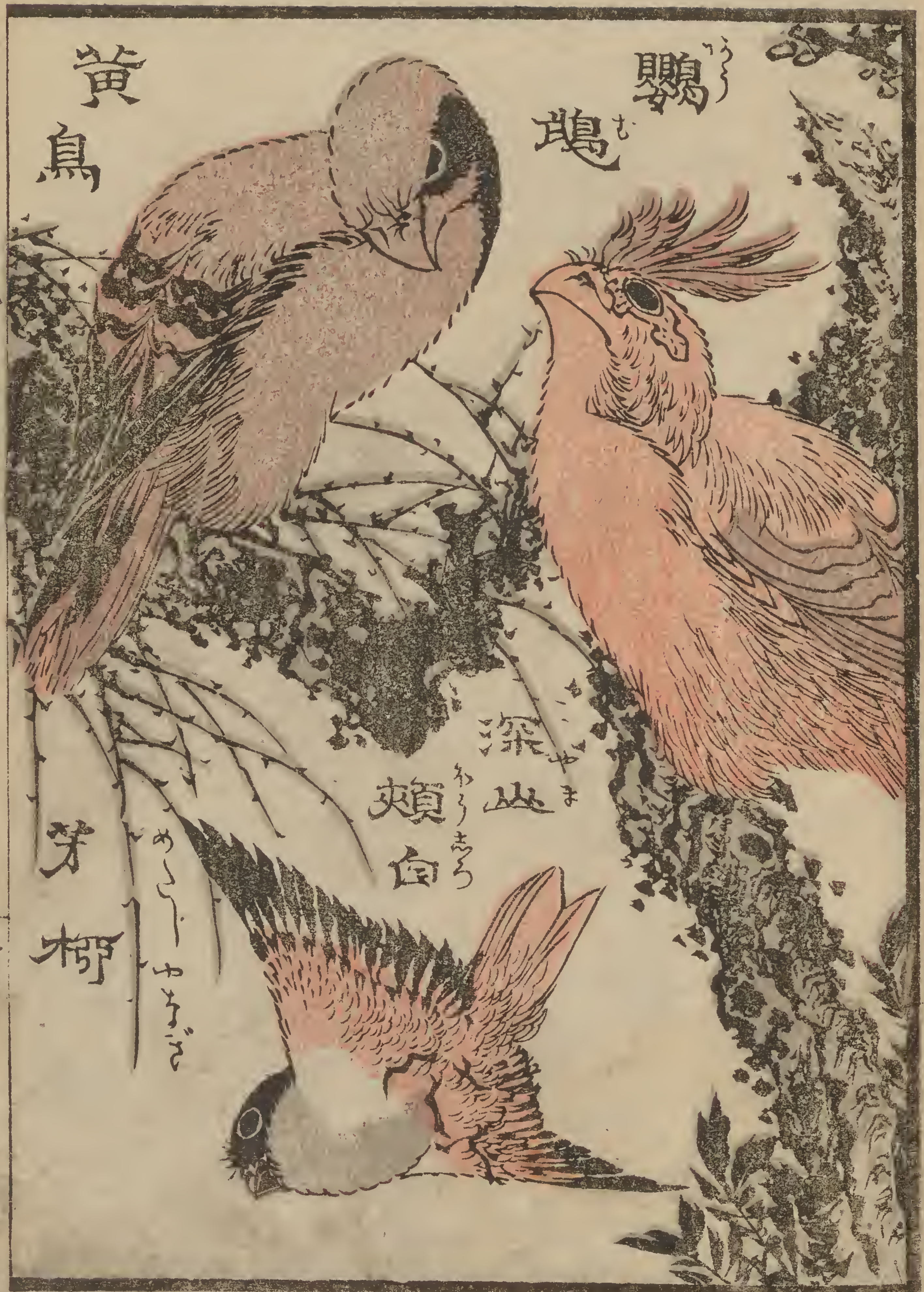
鳫
枯芳

二之厂かり
群雁ぐんがん

薄紅梅（うすこうばい）

鶯五羽（うぐいすごは）

糸櫻
練雀
深山頰白
練雀
枯枝


黄鳥
鸚鵡
深山
頰白
芽柳

白鶏（しろ）
蹴合（けあい）
散桜（ちりさくら）

油鶏（らふう）

のぎく
野菊

のちどり
唯紅鳥

しろくじやく
白孔雀

まつ
松
黒孔雀

きんがう
おうじく
文鳥 ふんてう

海棠 かいどう
山鵲 さんじやく
白鷴 はくかん
仝
文鳥 ぶんてう

鶸
八頭

白雲雀
右同

鴛鴦
熊笹

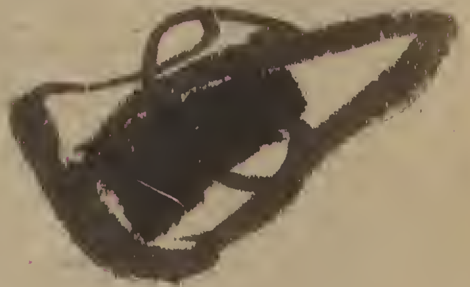
水澄

松
丹頂隺

鍋鶴

169
12.00

Hokusai, Kuachoquaden



萬職圖考 四編 五編 出来

此の編ハもとより大小の鍔小柄笄縁頭へのみならず都て腰元用の彫物を始め或ハ印籠煙管根付及び其外の蒔絵漆画子身にすべきに奇なる図を撰み出し其神筆の大模様染形馬額の類ひ欄子のほりもの柱隠しの彫物の職の図凡その雛形職人おのおの図法を悉く撰出し有用を撰り集めて坐右に在て萬職の重宝なるべきものなり

發行書肆

江戸本橋通二丁目 須原屋新兵衛

大坂心斎橋通 河内屋藤兵衛

同博労町角 河内屋茂兵衛